

南砺市利賀村上百瀬中村地区の 土砂災害について

■ 田 中 幹 夫* ■

○はじめに

南砺市は、平成16年11月1日、8つの町村（城端町、平村、上平村、利賀村、井波町、井口村、福野町、福光町）が合併し誕生しました。

富山県の南西部に位置し、北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は石川県金沢市と白山市、南部は1,000mから1,800m級の山岳を連ね、岐阜県飛騨市や白川村と隣接しています。

市の人口は50,853人（平成31年3月31日現在）であり、面積は琵琶湖とほぼ同じ広さの668.64km²（東西約26km、南北約39km）で、約8割が白山国立公園等を含む森林であるほか、岐阜県境に連なる山々に源を発して庄川や小矢部川の急流河川が



北流するなど、豊かな自然に恵まれています。

市北部の旧町市街地周辺の平野部では、春先の強風や台風、冬の雪、夏の暑い日差しを遮るため、「カイニョ」と呼ばれる屋敷林に囲まれた^{さん}住居が点在し、水田地帯の中に「散^{きょぞん}居村」と呼ばれる特有の美しい風景

が広がり、独特の集落景観を形成しています。また、岐阜県に隣接する五箇山地域にある相倉・菅沼の両合掌造り集落は、世界文化遺産に登録されており、東海北陸自動車道南砺スマートICの設置や北陸新幹線の開業により、観光客の数も飛躍的に増加しています。

南砺市では、平成20年7月に豪雨による甚大な災害が発生して以降、大規模な災害は発生してお



位置図



散居村の景観

* Mikio Tanaka 富山県南砺市長

りませんでした。この度新たな土砂災害に直面することとなりました。

○災害の概要

平成29年1月16日15:30頃、市内利賀村上百瀬中村地区にある旧利賀スキー場（平成13年4月に新たなスキー場の村営化に伴い閉鎖）で、融雪に伴い、長さ約300m、幅約80mの崩壊が発生し、大量の土砂が斜面を約500m以上にわたり流下しました。

土砂の流下は1月17日20:00頃には小康状態となりましたが、1月20日0:10頃に再び崩落箇所が拡大し土砂の流動が起こり、山腹斜面から流出した大量の土砂により、9:50頃には前日からゲレンデ最末端部に設置が始まった土砂流出防止用の土留め壁をのみ込み、さらに約80m下部の県道上百瀬島地線に達し、付近の人家や車庫、納屋、店舗等が半壊または全壊となっていました。このため、冬期における地域住民の唯一の交通路である県道が約340m区間通行止めとなり、県道に併



災害現場（全景）



家屋の被害状況

走する一級河川百瀬川上流の集落24世帯95名の住民が車では出入り出来なくなり、不安な日々を迎えることとなりました。また、開催目であった「利賀そば祭り」は、この土砂災害の影響により、やむなく中止となりました。

この土砂災害に対し本市では、発生直後から住民の安否確認、避難誘導に努め、6世帯10人に避難勧告を発し、地元消防団とともに監視・パトロールを行うなど現地での対応にあたりました。また、電柱なども倒壊の恐れがあり危険な状況となったため、電気事業者より上流部集落へ発電車を配置していただき、市の給水車なども準備しました。

また、県によって県道の迂回路の確保や下流の百瀬川の河道閉塞への事前対策などの応急対策や応急排水ボーリングの施工、ワイヤーセンサーや土砂の移動状況を計るGNSS（Global Navigation Satellite System）の設置等による監視体制の整備が図られました。

さらに国土交通省からは、県の要請を受け、Ku-SAT II（衛星通信可搬局装置）、照明車、応急組立橋などの災害対策機械が貸与され、災害発生原因の調査や応急対策工について技術的助言をいただくため、土砂災害専門家の派遣を受けました。

被災現場では県の施工により、そして集落に近い堆積区域では土砂流出対策として国土交通省の「災害関連緊急砂防事業」による堆積工の整備を、また、崩壊の発生区域では崩壊対策として林野庁の「災害関連緊急治山事業」による山腹工や排水ボーリング工等の整備を、それぞれ実施していただくこととなりました。

以後、平成29年秋の台風の影響などで遅れは生じたものの、関係機関のご尽力により対策工事が順調に進み、安全性が高まったとの判断により、平成30年8月10日に県道上百瀬島地線の通行止めが解除されることとなり、同日には市が発令した避難勧告についても1年半ぶりに解除といたしました。

なお、災害対策工事につきましては平成30年11月末で完了となり、今年度は恒久対策工事を施工していただくこととなっております。



国土交通省 照明車



国土交通省 Ku-SAT II



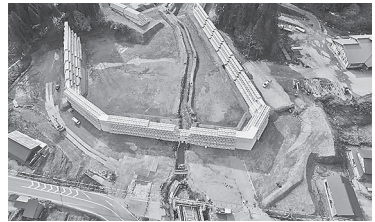
国土交通省 応急組立橋



復旧状況



山腹工（土留工）



堆積工

○今後の課題

近年は全国各地で大きな災害が発生しており、いつ、何処で、どのような災害が起こるかわかりません。今回の被災現場のように高齢・過疎化が進む中山間地の過疎集落では、一時的に孤立が生じるなどのリスクも高く、平時からの備えや非常時の対策について、今後とも地域住民が安心して暮らせるよう検討を深めなければならないと考えております。

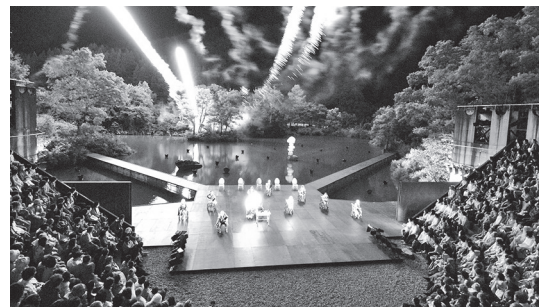
○おわりに

今回の災害では、被災直後から国、県をはじめとした各関係機関の多くの皆様からの多大なるご支援やお力添えのもと、迅速にご対応をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

余談ではございますが、今回の被災地近郊にある利賀芸術公園では、本年8月23日から9月23日の間、日本・ロシア共同開催となる「第9回 シアター・オリンピックス」が開催予定です。

「シアター・オリンピックス」は、鈴木忠志氏、テオドロス・テルゾプロス氏などの世界各国で活躍する演出家・劇作家により、1993年にギリシアのデルフォイにおいて創設された国際的な舞台芸術の祭典です。1995年のギリシアを皮切りに8カ国で開催されており、2つの国（日本・ロシア）で共同開催されるのは今回が初めてであり、日本では20年ぶりの開催となります。

是非とも復旧の進む南砺市利賀村へお越しいただきたいと思います。



演劇の様子